

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 情報と情報との関連付けの仕方を理解することができている。
- 聞き取り問題において、発言の意図を読み取ることができている。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で文脈より正しく意味を理解し書く問題に課題がみられる。
- 目的に応じて、文章や図表などから必要な情報を見つけることに課題が見られる。

【算 数】

- 角の大きさのきまりについての理解がよくできている。
- 小数の加法において、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えて計算することができている。
- 分数の計算において、単位分数に着目して計算の仕方について考察し、表現することに課題が見られ、未回答のままである児童が3割程度いる。

【理 科】

- 温度による水の状態の変化を説明することができている。
- 植物の発芽条件について、差異点や共通点を基にして、自分で新たな問題を作ることに課題が見られ、未回答のままである児童が3割程度いる。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 「算数の勉強は好き。」と回答している児童が多い。
- 「将来の夢や目標を持っている。」と回答している児童が多い。
- 長時間（1日平均2時間以上）携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴、ゲームをしている児童の割合が高い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 学力向上委員会（学力向上コーディネーター）を核とした、組織的な取組の推進と形成的評価等による学力推移の見取り
- ・ 指導法工夫改善教員を中心とした、算数科の授業改善とICT機器の効果的な活用
- ・ 国語科、算数科において、各学年の課題に沿った「チャレンジタイム」の全校実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 国語科の時間の最初に漢字を復習する時間を設定
- ・ 全ての教科において、「読んで、意味を理解する」取組を進め、書かれている内容や問題文の意味理解を進める取組
- ・ 数の相対的な大きさを把握するための、具体物操作の機会やICTによる視覚資料の充実

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 「赤ペン先生の取組」「ASK」（放課後学習教室）など、家庭・地域と連携を図った学習
- ・ 「いとお子ノート（キャリアパスポート）」を活用した、なりたい自分について考える時間の確保

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 生活リズムの大切さやSNS使用のルール作り等、家庭へ啓発する機会の確保
- ・ 学習の達成感や、生活の充実感を得ることができる教師の肯定的な評価